

心の成長

校長 高橋 馨

41度を超える、歴代最高気温が何度も更新された今年の夏休み。都内でも35度を超える日が何日も続きました。今後も、しばらくは暑い日が続くそうです。登下校時の暑さ対策をしっかりとしながら、早く学校生活のリズムを取り戻せるよう体調管理に気を付け、新学期の学習をスタートさせましょう。

さて、最高に暑かった今年の夏ですが、特別支援教育の分野でも、様々なイベント、研究大会や研修会が開催されていました。そうした大会の一つ、東京で開催された全国知的障害教育校PTA連合会の全国大会に参加した際、『心』について考えさせられる場面がありました。自己選択自己決定をテーマにしたシンポジウムでのことです。「決定する意思、心はどこにあるのか」という問いがあり、「『心』は人と人の中にある。」さらに、意志としての『心』のありかは『関係性』の中であり、「体と同じように『心』も成長していく。人と人の中で成長していく。」という発表でした。また、「自己肯定感も他者との関係性の中にある」と説明され、他者の重要性(重要な他者)についても触れられていました。生徒たちにとって『重要な他者』である教員が、その役割を確実に果たすこと、そのためにも生徒との関係性「つながり」が重要であることを改めて突き付けられたように感じました。

本校では、全ての活動の基本として『優しく』という言葉を大事にしています。2学期の始めにあたり、全教職員が生徒一人一人の重要な他者として、「関係性・つながり」を大切にしながら活動を進められるよう、『優しく』『心を込めて丁寧に』『伝える、伝わる、つながる』ことを再確認しました。そうして、子どもたちの『心』も育みながら、新たなことに、苦手なことに挑戦していく。そのような姿勢で、2学期も充実した活動を展開していきたいと考えています。修学旅行や移動教室、そして現場実習と重要な大きな取組も控える2学期です。引き続き、家庭と学校が、生徒・保護者・教員がしっかりとつながり、様々な活動を通して成長していけるよう、よろしくお願いいたします。

蛇崩(じゃくずれ)遺跡から ~歴史ある青鳥のエピソード~

8月末、埋蔵文化財の調査が行われている本校舎の作業現場を見学する機会がありました。竪穴住居の柱や炉の跡がいくつも発掘されていて、中には原形を留めているような縄文土器も見られました。そうした発掘品が並ぶ中に土偶を見つけ驚いたのですが、それは埋蔵物でなく本校の備品とのことでした。土偶には「白石実務」の刻印があり、調べてみると昭和30年代に東北の学校(白石実務学級)で製作されたもののようでした。なぜ本校の土地に埋まっていたかは不明ですが、歴史ある青鳥ならではの遺物です。



八丈分教室より

7月19日、20日に町役場で開催された八丈島夏まつりに八丈高校園芸科の皆さんと参加し、園芸科で栽培した苗や野菜を販売しました。分教室生は使いやすいようにレジ袋を広げて準備し、商品を袋に入れてお客様に手渡しました。暑い中、八高生や教員と協力して取り組み、たくさんの方と交流することができました。

